



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 70 号 2018/1/4 発行）



[〈https://www.iima.or.jp/〉](https://www.iima.or.jp/)



＼1. 理事長 渡辺博史 コラム／

戊戌の年

[〈https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2018/20180104watanabe.pdf〉](https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2018/20180104watanabe.pdf)

今年が戊戌「つちのえ いぬ」年である。60の干支の35番目にあたる。陰陽五行も含めてどういう年かという解説をする能力はないので、過去の事象だけを拾ってみよう…

＼2. 専務理事 倉内宗夫 コラム／

日本と中国の経済協働は如何に

[〈https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2018/20180104kurauchi.pdf〉](https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2018/20180104kurauchi.pdf)

年末に二つの経済関係の国際会議に参加した。改めて我が国の国際社会で果たす役割について考えさせられる機会となった。

一つは日本ニュージーランド…

■ホームページ 「IIMAの目」

短編コラム「IIMAの目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

[〈https://www.iima.or.jp/research/column/index.html〉](https://www.iima.or.jp/research/column/index.html)

1. 「金融・経済面で安定した末尾『7』の2017年を振り返って」 志波和幸
2. 「2018年の円相場をどう見るか」 武田 紀久子
3. 「資産運用業とFinTechに力点を置く『国際金融都市・東京』構想」 矢口 満
4. 「再構築が必要なドイツの環境・エネルギー政策」 麻野文裕
5. 「最近のビットコイン分裂に思うこと」 志波和幸
6. 「トルコ政府による強引な支持基盤固め」 潮田玲子
7. 「カタルーニャ独立問題とスペイン企業の生き残り戦略
～中国のプレゼンスが急拡大する中南米市場でのビジネスモデル～」 松井謙一郎

[〈https://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html〉](https://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html)

◀掲載内容▶

- IIMA Global Market Volatility Index
(グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数)
- 購買力平価グラフ
(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

■ 今月の新着レポート ──── ■

1. 「外貨準備の関連統計の活用法
～アルゼンチン、チリ、メキシコ、トルコに関する分析例～」 森川央
[〈http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_35_j.pdf〉](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_35_j.pdf)
IMFが開発している「公的準備資産、外貨流動性資産」統計の紹介と、活用方法を解説する。
2. 「ブラジルの労働法改正について」 森川央
[〈http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/311_j.pdf〉](http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/311_j.pdf)
ブラジルで労働法が改正されたが、抜本的な改革は見送られた。労働市場の活性化、柔軟化への効果はあまり期待できない。
3. 「ASEAN 諸国の国際収支の発展段階」 中村明
[〈http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/310_j.pdf〉](http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/310_j.pdf)
経常収支の動向は、一国の通貨や経済の先行きを展望するうえで常に注視する必要があり、その中長期的な姿を考える際に参考になるのが国際収支の発展段階説である。本稿は、本仮説をもとに、ASEAN 諸国の経常収支を考察する。
4. 「スーク（イスラム債）市場の動向と日本市場の課題」 荻野泰治
[〈https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_34_j.pdf〉](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_34_j.pdf)
スーク（イスラム債）が東南アジアならびに GCC 諸国を中心に発展している。金融先進国においても、近年、発行実績が出てきているが日本国内では発行実績はない。日本国内市場における今後のスーク市場の発展の可能性について考えるもの。

5. 「なぜ先進国の賃金は上がりにくくなったのか」 矢口満

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/309_j.pdf

失業率低下にもかかわらず賃上げ率が高まりにくい旨が指摘されている。背景として技術革新やグローバル化が挙げられるが、これらは一部分を説明するにすぎない。本稿では全体像の理解に資すよう、様々な議論を整理する。

6. 「The Second Term of the Xi Jinping Leadership:

New Economic Team to Start its Full-fledged Activities Next March」 Naoki Umehara

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_18_e.pdf

「第 19 期共産党大会により第 2 期目の習近平指導部が始動
～経済チームは 3 月の全国人民代表大会で全面的に始動～」の英語版

■ 今月の IIMA

2017 年 12 月、バングラディッシュ出身でコロンビア大学で学位を取得している、ある在米エコノミストが前年に続いて IIMA に来訪した機会に、米国経済の動向について議論しました。そのなかで、米国の人口動態とトランプ大統領の政策にかかわり「メキシコとの国境の壁の建設にはメキシコ人自身を雇わなければならないだろう」というジョークが印象的でした。今年は、米国による挑発的な言動への各国の一層の冷静さと対応力が問われる年になりそうです。

こうしたなかで IIMA では何ができるでしょうか。1 月から 2 月にかけて受託調査のレポート（ラ米、中東等）をリリースします。また、2 月下旬には米国、欧州、中国および ASEAN からパネリストを迎え恒例の国際金融シンポジウムを開催するなど、予定が目白押しです。

今年も宜しくお願い致します。

【バックナンバー】

<https://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】

2018 年 2 月 1 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <https://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.